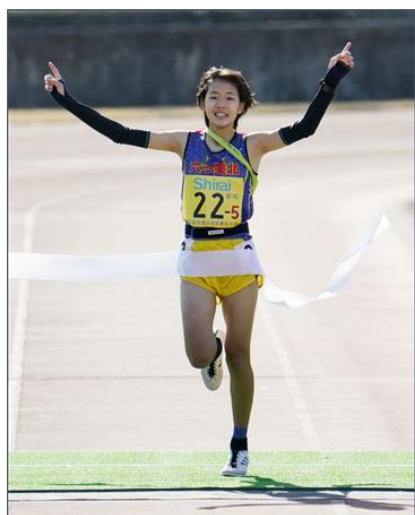




## 岡崎・六ツ美北 “ 全国初V ” 全国中学駅伝（女子）

全員でつかんだ日本一。15日に滋賀県であった全国中学校駅伝大会の女子で、41分43秒（5区間12キロ）を記録し、初出場で初優勝を果たした岡崎市の六ツ美北。栄冠を手にしたメンバーたちは、泣きじゃくりながら「ほんとに、ほんとに、日本一の夢がかなった」と喜びを爆発させた。

序盤から好位置につけた六ツ美北は、3区の鈴村愛菜選手（2年）が首位と17秒差の4位でたすきを受けると「次に走る3年生2人には笑顔で先頭を走ってほしかった」との一心で、ひたすら前を追い掛けた。「デッドヒートだったけど、1キロ手前で仕掛けて3人を抜いた」と、トップに立った。



終盤スピードが落ちそうになったが、太田周作監督の「ピッチ上げて。ラスト！」の声で力を振り絞った。たすきをつないだ3年生2人が後続を振り切り、優勝のゴールテープを切った。

3年生が入学した直後の2年8カ月前、赴任してきたばかりの太田監督は「君たちが3年生になったら、絶対に日本一のチームにしよう」と誓った。選手のレベル別に10種類の練習メニューを組み、練習の満足度や食事内容を一人一人ノートに記入させ、自己管理を徹底するよう指導。選手たちは精神的にも成長した。

太田監督は「苦勞を共にしてきた3年生も活躍し、目標が現実になった。全員駅伝で、全国でも自分たちらしさを出せた」と、教え子たちを見つめ、喜びをかみしめた。（県内版）

第17回全国中学校駅伝大会が15日、滋賀県希望が丘文化公園であり、女子は愛知県岡崎市の六ツ美北中が41分43秒で初優勝した。同県勢の優勝は男女通じて初。男子は栃木県市貝町市貝中が初優勝した。六ツ美北は、エース区間の1区で2年の小嶋聖来選手が5位と奮闘。トップと17秒差の4位でたすきを受けた3区の鈴村愛奈選手（2年）が区間賞の快走で、一気に抜き去って首位に立った。4区の小嶋心結主将（3年）は「入学したとき、絶対に日本一になると、監督や仲間と誓った。苦しい練習を皆で乗り越えてきてよかった」と喜んだ。大会には全国から男女49チームが出場し、男子は6区間18キロ、女子は5区間12キロの周回コースでタスキをつないだ。